6

「泉」

六　★　泉

かつて参加したワークショップ。稽古場が公共施設だった。体育館などで見かける『ウォータークーラー』と呼ばれる水飲み場があり、休憩の際に使ったところ、その場にいた参加者の一人に「え？それ飲むんですか？」と笑われた。たったいま口にした水のように冷たい笑いだった。

一瞬、意味がわからず、「誰かこれにいたずらでもしたんですか？」と聞くと、そういうわけではなく、単純にその水を飲みたくない、とのことだった。たしかに水飲み場で「うがいをしないでください」などという気分を害するような注意書きを目にしたことはあるが、イメージが悪いのだろうか。思ったことを口に出しただけなのか、発言に悪意が含まれていたのかはわからない。でもこの水が、「ハイみなさん、ローラのモノマネをしましょう！」という、斬新なトレーニングをさせられたあとの乾いた喉を潤してくれたことは確かだ。その人はテイクアウトしたスタバの飲み物を飲んでいた。

命を生かすものってなんだろうと考えた時に、一番は水ではないかと思う。食べ物という答えもあるが、人は食べ物がなくても2週間ほど生きられるのに対し、水なしでは3日ほどしか耐えられないという話を聞いたことがある。体の６０パーセントは水分なのだ。水を大切にしないと！

考えにつまった時に見るものがある。それは熊本県の南阿蘇村（みなみあそむら）にある『白川水源（しらかわすいげん）』にて、自分のスマホで撮影し

た動画だ。湧水場所の水面をなにげなく撮影したもので、地下からもこもこと水が湧き出てくるのが写っている。途絶えることなく、かぎりがなく、大地から湧水する様子をただ眺めながら、湧き出る水をアイディアに例えてみると頭が冴えてくる。

白川水源は環境省が定める『日本名水百選』のひとつに数えられ、透き通った水面は翡翠に似た神秘的な色をしており、とても美しい。その湧水量は毎分およそ６０トンにもなるという。実際に水を汲んで飲むことも可能だ。僕が訪れた日は、おそらく数十人、多くても１００人ほどの人出があったが、仮にそこにいる全員が同時にごくごくと好きなだけその水を飲んだとしても、僅かたりとも水量が減ることはない。枯れることなど決してない、永遠の泉のようだ。

フランスのミネラルウォーター『ボルヴィック』は、長いあいだコンビニやスーパーでも販売されていたが、近年あまり見かけなくなった。理由としては、製造メーカーの日本での販売委託契約が終了したことが大きいが、実は数年前から、そのボルヴィック水源が枯渇の危機に瀕している。水量確保に必要な降雨量は安定していることから、過剰な採水が原因と見られる。飲料大手企業の工場が汲み上げる水量は、なにしろ世界中の人々を相手に販売しようという規模なのだから、白川水源を訪れた人が喉の渇きを潤すために飲む量の比ではない。水不足によって生態系に影響が出ているほか、農業にも支障をきたしているという。

『永遠の泉』は、有限だったのだ。もこもこと湧き出す白川の水もいつかは枯れて、乾いた大地になってしまうかもしれない。地域に住む方にとっては貴重な生活用水であり、僕にとってはアイディアの泉。枯れてしまっては困る。今も、企業の調査員や外国から来たお金持ちが日本中の至る場所で土地を探して、いい場所を自分のものにしようとしているのだから、無関心ではいられない。

水は、地表に出ている部分はほんの一部で、地下にはその１００倍の量が蓄えられている。目に見えないため、例えば何者かが大量の地下水を汲み上げて独占し、それにより枯渇や地盤沈下が発生したとしても、原因や責任のありかを特定することが難しいらしい。実際にアメリカやフランスでは法廷闘争になっている。自分たちでは飲みきれないほどの水を取っておいて、ウチは関係ない、というのはだめでしょう。ひとりじめなんてやめようよ。

もっとも、僕の泉は画面の中にあり、枯れることはない。みなさんも何か、あなただけの泉をお持ちだと思う。循環し、けっして枯れることのない。それを誰にも奪われず、守りつづけてほしい。